

【MACF 礼拝説教要旨】

2019.12.01

【イザヤによる救い主の預言】

イザヤ書 9 章

9:5 ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。権威が彼の肩にある。その名は、「驚くべき指導者、力ある神永遠の父、平和の君」と唱えられる。
9:6 ダビデの王座とその王国に権威は増し平和は絶えることがない。王国は正義と恵みの業によって今もそしてとこしえに、立てられ支えられる。万軍の主の熱意がこれを成し遂げる。

イエス様が生まれる 700 年以上前に、救い主の誕生が予告されていました。そしてこの救い主には特徴的な名前がつけられており、これらの名前通りの役割を果たせるからこそ、救い主だというメッセージが込められていました。

4 つの名前とは：

「驚くべき指導者」「力ある神」「永遠の父」「平和の君」です。

いろいろな政治的指導者、思想的指導者、哲学者などがこれらの名前にふさわしいのではないかと考えられてきましたが、聖書は「イエス」こそがこのお方であり、イエスこそが「キリストだ」と教えるのです。

4 つの名前の特徴を見ていきましょう。

1) 驚くべき指導者：これは英語ですとワンダフル・カウンセラーとなっています。わかりやすいです。驚くほど素晴らしいカウンセラーとしてこの救い主はおいでになるのだということです。

実はイエス様は、こんなふうにお語りになりました。

マタイによる福音書の言葉です。

「11:28 疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」

疲れ果て、重荷に悩む人たちへの招きの言葉です。

荷物が全部なくなるわけではないのですが「心に

休息」を得ることができるということです。まさに、カウンセラーそのものの役割です。

2) 力ある神

この力とは腕力とか奇跡を起こす力ではなく、むしろ「存在をあらしめる力」「無から有を作り出せる、生み出せる力」と考えることができるかもしれません。

ヨハネによる福音書には

「1:1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

1:2 この言は、初めに神と共にあった。

1:3 万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。

1:4 言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。」

という表現で「言葉」と呼ばれる存在が紹介されています。

ある人は、この「言葉」を「関わりの御手」と呼んでいるのですが、「神の愛による関わりの御手、関わりの心」を私たちの内側に味あわせ、確かに今までとは違う何かを生み出してくださるお方、それがイエス様です。

居場所を感じられる生き方、神の愛に取り囲まれていける喜びを味わえる生き方を、私たち一人一人にもたす力をイエス様はお持ちです。私たちが絶望から救い出す力、それをイエス様はお持ちです。

3) 永遠の父

イエス様は神の御子と呼ばれていますから「父」と呼ぶのはどうもおかしいと感じる人もおられると思います。その通りです。でも、父という言葉の中に「保護者」という意味があるので、「永続的に途切れることなく、私たちと共にいて支援的に、前向きに歩ませようと祝福を添えながら、生きるを励ましてくださる存在」を永遠の父と呼んで間違いではないと思います。そして、イエス様はそう呼ばれるのにふさわしいお方です。「イエス様の別名はインマヌエル。(神はわたしたちと共におられます)」だからです。

弟子たちに対しても

「28:18 イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。

28:19 だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、

28:20 あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイによる福音書 28 章)と語っておられます。

全ての権威をお持ちであり、共におられる救い主、それがイエス・キリストです。

4) 平和の君

イエス様は、私たちの心に神との平和をもたらすために来られました。私たちの心にあるエゴ、さまざまな神への反抗心、まとはずれ、そういうことから引き起こされる神への罪を処分、清算して和解と絆をつくり上げるために、イエス様は来たのです。神との平和をもたらすためにこそイエス様は来てくださいました。

その誕生前に天使がヨセフにこう告げています。

「1:18 イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。

1:19 夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。

1:20 このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。

1:21 マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」

これがまさに、イエス様の使命でした。民を罪から救い、神との平和を構築すること。

*信仰が求められている。

というのはイエス様は、頼るべき人もなく、無力で

弱く、混沌としている世の中に赤ちゃんとしてお生まれになったわけで、その赤ちゃんが、この預言の人だと受け止めるには「信仰」がなければ無理なのです。

しかし、よく考えてみると、全く弱い状況にお生まれになったお方だからこそ、私たちの必要に応えることができます。

その宣言には説得力があります。

不思議なことに、神は私たちにイエスこそキリストであると信じる心を与え、心にふかくなずかせてくださる。

このお方の降誕を祝うのがクリスマス。

このお方が来てくださったことで、私たちには大きな希望がもたらされます。

心の重荷が解き放たれるからです。

クリスマス、それはキリストを礼拝するという意味の言葉です。そこに解放が、そして祝福がうまれます。

今日が、あなたにとってのクリスマスになればと思います。